愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	ジェンダー論		
担当者(Instructors)	徐 玉	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義では、普段の生活の中で触れているジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々な事象を批判的に分析するための視座を身につけます。第10回まではジェンダー関連の専門用語やフェミニズム運動の流れ、および、クィア・スタディーズの基礎的な考え方について紹介します。第11回以降はメディアにおけるジェンダーやセクシュアリティの問題に重点を置きます。ジェンダーの視点から、歴史的・社会的な文脈の中で、社会現象や表象文化を批判的に読む力を養います。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	テキストを特に指定せず、必要に応じて補足資料を配布して授業を実施する。メディア教材（映画などの一部の参考上映も含む）で適切なものがある場合は活用する。時間が許せば、アクティブラーニングの手法を導入し、ディスカッション等にも取り組ませる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業概要や目的、成績評価についての説明など	□
第2回	ジェンダー学の基本概念①	「性別」、「性差」などといった基本概念についての説明	□
第3回	ジェンダー学の基本概念②	第一、二派フェミニズム、ポストフェミニズム、日本のフェミニズム運動について紹介する 参考上映：『未来を花束にして』（サラ・ガーヴロン2015年）	□
第4回	「母性」について①	「母性」、「母性愛神話」、「近代家族」、生殖について説明する	□
第5回	「母性」について②	母子関係、女性嫌悪について考える 参考上映：『秋のソナタ』（イングマール・ベルイマン1978年）	□
第6回	性差と性役割	「女らしさ」、「男らしさ」の諸問題と性役割について考える 参考上映：『理由なき反抗』（ニコラス・レイ1955年）；『転校生』（大林宣彦1982年）	□
第7回	ジェンダーと家族	親族構造、近親相姦タブー、新しい家族の形式について学ぶ	□
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ	「パフォーマティヴィティ」、「ホモソーシャリティ」という概念について学ぶ	□
第9回	「男同士の絆」について	イヴ・K・セジウィックが提起した「男性のホモソーシャルな絆」という概念を理解する。 参考上映：『あ・うん』（降旗康男1989年）	□
第10回	性の多様性―LGBTQとは何か	LGBTQ、性別二元論、同性愛と異性愛、同性婚、パートナーシップ制度などについて学ぶ	□
第11回	メディアにおけるジェンダー①	メディアにおけるジェンダー表象、特に広告にみる女性表象のステレオタイプについて検討する	□
第12回	メディアにおけるジェンダー②	古代ギリシア・ローマ以来の文芸・美術から現代社会まで、沈黙を強いられてきた女性たちの声や発話について考える	□
第13回	メディアにおけるジェンダー③	映画における同性愛表象、特にレズビアン表象・女同士の絆について学ぶ 参考上映：『悪魔のような女』（ジェレマイア・S・チェチック1996年）など	□
第14回	メディアにおけるジェンダー④	ケーススタディーズ：これまで学んできた理論を使って、ジェンダーの視点で映画を分析してみよう 参考上映：『華岡青洲の妻』（増村保造1967年）	□
第15回	全体のまとめ	これまでの内容を振り返り、授業で取り上げた内容をさらに深める	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業中に提示される文献講読の予習（2時間程度）と復習（2時間程度）を行ってください。 「参考上映」は関連映画のごく一部の上映なので、関心があれば授業後にぜひ各自で全編を見てみてください（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題を出した場合は、翌週にまとめてフィードバックし、全体で共有する機会を設ける。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	ジェンダー関連の専門用語やフェミニズム運動の流れ、クィア・スタディーズの基礎的な考え方を理解することができる。 ジェンダーの視点から、歴史的・社会的な文脈の中で、社会現象や表象文化を批判的に読み解くことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内容に関するコメントシートまたは小レポート、教員の質問に対する解答、授業理解に向けた積極的な姿勢・発言

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	特になし。授業内で適宜提示を行います。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	上野千鶴子『女ぎらい―ニッポンのミソジニー』紀伊國屋書店、2010年。	
2	加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア、2017年。	
3	林香里／田中東子編『ジェンダーで学ぶメディア論』世界思想社、2023年。	
4	森山至貴『LGBTを読みとく―クィア・スタディーズ入門』ちくま新書、2017年。	
5	松本伊瑳子ほか編『ジェンダーを科学する 男女共同参画社会を実現するために』ナカニシヤ出版、2004年。	